

カトリック

広島教区報

No. 109

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

白浜司教挨拶・じゃけえのう・平和行事ポスター
世界平和記聖堂・助祭叙階式・教区の動き
典礼の窓・予備神学校・JICA R.M. 広島便り
地区・海峡からの風・広島教区の施設
青少年・ひと粒

一〜二面
三〜四面
五面
六〜七面
八面

教会の「祈る使命」のためのチャレンジ

アレキシオ 白浜 満 司教

【はじめに】

広島教区は、教区創立百周年（二〇二三年）に向かう歩みの中で、今年の四月から「教会へのチャレンジ」という第二段階（三年間）に入りました。広島教区では、主イエスが教会に委ねた①人びとの救いのために「祈る使命」、②福音を「伝える使命」、③隣人に「仕える使命」を、一年毎にクローズアップして、それぞれの使命をよりよく果たして行くことができるよう、教会の刷新に取り組んでいくことを申し合わせています。この主な三つの使命は、日々、人びとのた



白浜満司教

めに祈り（祭司職）、福音をのべ伝え（預言職）、愛のわざに（牧職）励まれた、主イエスご自身の救いの働きであり、キリストに結ばれている教会が世の終わりに至るまで、生き生きと継続して行かなければならない尊い大切な務め（典礼活動・宣教活動・司牧活動）です。

【祈る使命のために】

〈入信の秘跡の恵み〉

人々のために祈り、福音を伝え、愛をもって仕えるという、教会の主な三つの使命をよりよく果たして行くために、「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながってれば、その人は豊かに実を結ぶ」（ヨハネ十五・五）という、主イエスのみことばを心に刻みたいと思えます。洗礼によって聖霊を注が

れたわたしたちは、神の民の牧者（頭）であるキリストに結ばれ、堅信（聖霊の賜物）によって、その絆を強めていただきました。さらに、洗礼と堅信を受けた人は、この秘跡の恵みを開花させ、キリストの背丈にまで成長し、豊かな実を結ぶことができるよう、絶えず聖体に近づくことが求められています。洗礼・堅信・聖体の三つの秘跡は、より深い信仰の神秘へとわたしたちを導き入れる恵みをもたらすため、「入信の秘跡」とも呼ばれています。

〈ミサの重要性〉 第二バチカン公会議は、聖体の秘跡を執り行うミサを、教会活動の源泉と頂点に位置づけました（『典礼憲章』十参照）。

ミサは、父なる神に祈りながら、人々に福音をのべ伝え、愛のわざに励まれた主イエスに結ばれて、教会がその救いのわざを継続（現在化）していく「最高の祈り」であり、また復活された主イエスとの「最高の出会いの場」です。

じゃけえのう

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね!」という意味。

私のキリスト教との出会いは幼稚園の頃。プロテスタントの幼稚園に通った私は、そこで初めてイエスの存在を知りました。公立小学校を経て、次に進学したのはカトリックの女子校。宗教の授業はもちろん、宗教科に熱心に取り組んだ合唱部での活動や、「シスター手作りのお菓子が食べたい!」という理由で入ったカトリック研究会での活動も、一つひとつが私の中で信仰が芽生えるきっかけとなりました。高校生の頃、学校行事での奉仕をきっかけに近所の教会に出入りするようになり、教会の居心地の良さもあってか、キリスト者として生きることを意識し始めました。

私は学校でキリスト教に出会い、神の愛のまなざしに気付くことができました。そのため、「私も若い世代のキリスト教との出会いをアシストしたい」と思い、宗教科の教員免許が取得できる上智大学神学部への進学を決めました。知識の乏しい私には噛み応えのある授業ばかりでしたが、四年間で得たものは単なる知識に留まらず、これから生きていく中であらゆる場面で生きてくる糧だと強く感じます。信仰面でも、様々な背景を持った仲間たちと共に悩み、喜び、分かち合い、そして昨年九月に受洗の恵みに与ることができました。父である神の大きな愛に包まれているのを感じながら、キリスト者として生きていくことに喜びでいっぱいになったことを思い出します。

（鞆町教会 荒谷美里）

ミサの集いに、主イエスが来られ（マタイ十八・二〇参照）、みことばを語り、父なる神に賛美と感謝をささげ、ご自分のからだであるパンを裂いて与えてくださいます。このキリストの働きに触れ、その祈りと愛に深く結ばれるため、わたしたちは聖霊の促しを受け止め、互いに声を掛け合いながら、主日や祭日のミサに積極的に参加するよう、心がけましょう。また、ミサのすばらしさについて学び、自分たちの共同体の典礼を振り返りながら、キリストの働きに応える心のこもった典礼となるよう、心がけましょう。

【生活の中で福音を伝え、人びとに奉仕する】

ミサは、派遣の祝福で結ばれます。主イエスは、ミサの中でご自分の救いのわざを記念させ、いのちのみことばとパン（杯）によってわたしたちを強め、人びとの救いのために、ご自分とともに働くよう、それぞれの生活の場へわたしたちを派遣します。そのため、キリストとともに「祈る教会の使命」は、生活の中で、キリストとともに「福音を伝える使命」、人びとに仕える使命へと展開される

なければなりません。人間の社会を福音化し、一人でも多くの人びとを秘跡の恵みによってキリストに結ばせ、キリストとともに生きる喜びへと導くためです。

〈広島教区の五つの祈り〉

広島教区では、これまでに優先課題を押し進めていく恵みを神に願うために、三つの祈り（「平和の使徒となるための祈り」、「三姉妹教区のための祈り」、「津和野の殉教者の列聖を求め祈り」）が作成されていました。わたしは、広島教区の現状を考慮して、「召命のための祈り」と「教区百周年に向かって歩む祈り」（案）を新たに作成して意見を求め、六月に開かれた教区の宣教司牧評議会において修正を加え、広島教区の五つの祈りとして採択しました。まもなく、五つの祈りが同じ一つのパンフレットにまとめられて、皆さんの手元に届けられると思います。どうか、教区のために、主日のミサの前後に、また日々の生活の中で、これらの祈りを一日に一つずつでも唱えていただければ幸いです。

〈教区共通の祈祷書の編纂について〉 教区創立百周年に向かって歩む「家庭への



2017 平和行事
ラウダート・シ
 LAUDATO SI
 私の主よ、あなたはたたえられますように
 찬미 받으소서
 ~ともに暮らす地球で~

8月5日(土) 13:00~
 シンポジウム「ラウダート・シ」
 広島地壇荘
 信望之人権 福島事故がもたらした課題
 青年プログラム / 子どもプログラム
 祈りの重み (平和記念公園)
 平和行進 (平和記念公園~世界平和記念聖堂)
 平和祈願ミワ / テゼの祈り

8月6日(日)
 宗教者平和の祈り (平和記念公園)
 原爆・すべての戦争犠牲者追悼ミサ
 世界平和記念聖堂室内 / パースウォーク
 被害者を救われた身勝の人~アルベ神父~
 スピリチュアルコンサート

8月9日(水) 11:00~
 長崎原爆犠牲者追悼ミサ

場所：世界平和記念聖堂

カトリック広島司教区・平和行事实行委員会
 世界平和記念聖堂・カトリック庵町教会
 730-0019 広島市中区庵町4-42 TEL:082-221-6017 FAX:082-221-6019

チャレンジ」の第一段階において、広島地区では『家庭の祈り』という青い小冊子が作成されていますが、もう在庫がない状態です。ミサから派遣されていくわたしたちが、日々の生活の中で、人びとの救いのため、「祈る使命」によりよく励むことができるよう、広島教区の五つの祈りを加えて、『家庭の祈り』の小冊子を改訂増補し、教区共通の祈祷書の作成を検討して行きたいと思えます。

【司教召命のために祈る】

広島教区では、現在、五十名を超える司教が働いていますが、その中で教区司教は十八名、プサン教区からの派遣司教が三名、残りの半数以

上は、イエズス会、淳心会、ミラノ宣教会、フィリピン宣教会などからの派遣司教です。これらの修道会や宣教会からの司教の派遣は、次第に厳しい状況になりつつあります。同時に、司教団も年々高齢化しています。広島教区には幸いにも、現在、教区内にあるいは神学院で、司教叙階の準備に励んでいる一名の助祭と五名の神学生がいますが、決して十分とは言えません。また、一人の司教の養成のた

めには、通常、六年の歳月が必要で、主イエスは「収穫は多いが、働き手が少ない。」だから、収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主に願いなさい」(ルカ一〇・二)と命じておられます。教会の「祈る使命」に合せて、主イエスの呼びかけに応えようと、司祭召命の道歩んでいる上記の方々のため、また、後に続く神学生志願者が多く与えられるよう、より一層、皆さんの祈りをお願いしたいと思えます。また、この司祭召命(主に神学院に支払う分担金)のために経済的な支援を続ける目的で、募金活動をしている「一粒会」という任意の団体があります。司祭養成のための安定した財源確保のため、より多くの方々に、この「一粒会」への加入をお願いしたいと思えます。

【神学生志願者の募集のための活動】

募集のための活動

「働き手」の高齢化と召命の減少は深刻です。広島教区では、神学生志願者を募集するため、昨年から新たに「召命を考える集い」という活動を開始しました。この集いは、高校卒業後(三三歳までの独身男子(受洗者)を対象

に、一年に二〜三回定期的(三月、八月、十二月)に開催され、一泊二日の日程で、教区の神学生・養成担当司祭・司教と交流しながら、司祭召命について考え、語り合い、祈ることを意図しています。今後、パンフレットやポスターなどの作成も進めていきたいと思えます。広い意味で、キリストが自分に望まれる生き方を見つめてみるため、気楽な気持ちで参加してくださいよう、この「召命を考える集い」を紹介し、対象となる方々に声をかけていただければ幸いです。

重要文化財
世界平和記念聖堂
広島市現代美術館で
村野藤吾展開催

五月十六日から七月九日の間、広島市現代美術館(広島市南区)で「村野藤吾の建築―世界平和記念聖堂を起点に―」が開催された。

オープニングでの挨拶

世界平和記念聖堂保存活用委員会事務局長 原田豊己神父

広島市現代美術館主催「村野藤吾の建築―世界平和記念聖堂を起点に―」にご協力できることを、心からうれしく



原田神父 オープニングセレモニーで挨拶

思います。

この聖堂の建設にあたっては、一人のドイツ人宣教師フーゴ・ラサール(のちに日本に帰化し日本名 愛宮真備―えのみや まきび)神父の被爆の体験と、「原爆の犠牲者の追憶と慰霊、万国民の友愛と平和のしるし」となることを願う心があります。

ラサール神父の眼に見えない思いを建築家村野藤吾は、目に見える形で世界平和記念聖堂に結実したと思えます。時は朝鮮半島での戦火の中、物資の欠乏、建設費の捻出など多くの困難を抱えています。その困難を乗り越えることができたのは、平和を求め世界中の人々。特にドイツのカトリック信者たちは、自らの教会復興のよりも世界平

和記念聖堂建設を優先したと聞いています。さらには、施工にあたった清水建設、平和を希求する広島市民のみなさんでした。

カトリック教会は、聖堂の建設に対しての決まりごとがあります。そのような制約のなかで日本をこよなく愛し、日本文化を深く理解していたラサール神父は、建設のコンセプトの一つとして「日本のモダン」なものを挙げ、村野藤吾は見事にその思いにこえました。その実例として、ここに展示されているシャンデリアがあります。

どうぞ、聖堂建築の素晴らしさと共に、聖堂を訪れて平和のために祈りをささげてくださることを願っています。

世界平和記念聖堂募金 郵便振替口座

口座名：カトリック広島司教区

口座番号：01320-3-109791

*通信欄に「聖堂保存献金」と記入してください。

助祭叙階式

倉敷教会

四月八日(土)、淳心会のレイモンド神学生(コンゴ民主共和国)とバート神学生(フィリピン共和国)の助祭叙階式が倉敷教会で行われた。約二百名の司祭、修道者、信徒が参列、司式は、白浜司教。叙階後、レイモンド助祭は、倉敷教会で、バート助祭は、幡町教会で司牧実習を行っている。



左からバート助祭、レイモンド助祭、パトリック神父、白浜司教、バルト神父

教区の動き
平和の使徒推進本部

【二〇一七年度(第一回)広島司教区宣教司牧評議会開催】

去る六月十日(土)、二〇一七年度第一回広島司教区宣教司牧評議会(以下、教区宣司評)が、広島カトリック会館多目的ホールで開催され、白浜司教、司祭、修道者、信徒の二十五人が出席した。前回の教区宣司評に続いて、遠方から出席する評議員のために、日曜より出席しやすい土曜に開催した。ただし、夕方のミサのため中座する司祭への配慮が必要との意見もある。教区宣司評は、白浜司教の挨拶と祈りから始まった。「新たなテーマ『教

会へのチャレンジ』の一年目を迎え、教会の刷新のために共に歩むことができますように。」の挨拶に続き、次のことが話し合われた。議題は、最初に四つの優先課題①津和野殉教者列聖②召命促進③青少年育成④教区共通力テキズム作成についての報告から始まった。続いて議題は、「新たなチャレンジに向けて」と題して、第二段階の『教会へのチャレンジ』について、五月に各地区で開催された地区宣教司牧評議会の報告内容を受け、白浜司教から具体的な方針説明があった。

◆教区創立一〇〇周年に向けて取り組みとして、

●教区独自の祈り「広島教区の祈り」の作成について確認した。既成の祈り、新たに作成した祈り、以下、五つの祈りを小さなパンフレットにして発行し、教区民に配布して、ミサの前後に祈って頂く。

- ①「平和の使徒」となるための祈り
- ②津和野の殉教者の列聖を求める祈り
- ③三姉妹教区のための祈り
- ④召命のための祈り



広島カトリック会館多目的ホール

⑤教区創立一〇〇年に向かって歩む祈り
前記の五つの祈りを含めて、既製の小冊子「家庭の祈り」を改訂増補し、教区共通の祈禱書として出版することを確認した。これは、少し時間をかけて取り組み予定。内容についても教区民からの意見、要望を求めていく。

●「堅信式の式次第」「聖体賛美式の式次第」の出版

その後、来年のファティマの聖母の記念日(五月十三日)まで、各地区を巡回し、世界平和のために「祈る使命」を推進していくため、聖母の取り次ぎを願う。詳細は各地区で決める。



◆ファティマの聖母出現百周年に合わせて、

●教皇大使の主導で、日本の教会のために木製のレプリカが作製されて、日本の教会を巡回中。

●広島教区への巡回が最後であり、教皇大使の意向で、世界平和のために祈るようにとのファティマの聖母のメッセージにゆかりの深い、世界平和記念聖堂に寄贈される。広島教区への巡回は十月二十五日になる予定。

◆「協働体制」の導入にむけて、

●「協働体制について」の説明文書を白浜司教が準備中。来年度以降の本格的な導入に向けて共通認識を図るためとのこと。司祭が主体になって信徒への説明の機会を作って欲しいとの願い。今年十二月の第二回教区宣司評で最終確認し、クリスマスに合わせて公布予定。公布後は、「ブロック」という名称を、正式に『協働体』に移行する予定。

●本年度から司祭団の役務として「広島教区典礼委員会」を発足させ、同時に「聖体授与の臨時の奉仕者」「司祭不在のときの集会所会者」の養成の責任を担う。今後、教区内の養成講座の内容、規約、式次第を集約し、教区全体として統一・調整を図る予定。

◆「信徒宣教者(仮称)」の養成の可能性について、

●今後、養成の可能性について検討を行っていく予定。

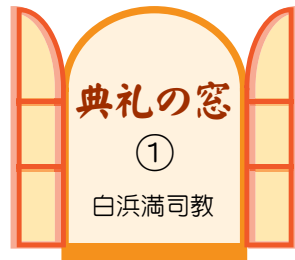
◆その他の取り組みについて、

●「教会へのチャレンジ」に沿ったポスターを作成する予定。

●「教会へのチャレンジ」を浸透させるため、期間中に歌える歌を作成する予定。

●教区宣司評の後半は、出席した評議員からの色々な報告、八月の平和行事の予定内容、世界平和記念聖堂保存活

用委員会からのお知らせ、その他諸連絡があった。
 以上のことが話し合われ、祈りと祝福のうちに三時間の教区宣司評を閉会した。
 意見や要望などは、平和の使徒推進本部までどうぞ。



シリーズ「典礼の窓」では、白浜司教による典礼の解説を掲載します。

〈教区典礼委員会〉の発足について

これまで、広島教区内には、日本カトリック典礼委員会が毎年九月に主催している全国典礼担当者会議に出席し、そこで話し合われたことを教区にフィード・バックする担当者として、一名の司祭が任命されていただけでした。この度、広島教区では、〈祈る使命〉を充実させる「教会へのチャレンジ」として、今年から教区典礼委員会を発足させました。広島教区の岡山・鳥取地区から一名（瀧井神父様）、広島地区から一名（ミカエル金神父様・協力：中村神父様）、山口・鳥取地区から一名（柴田神父

様）を委員として任命し、司教が顧問となり、合計四名で活動を開始しました。この教区典礼委員会の委員長に瀧井神父様、教区レベルの司教儀典長にミカエル金神父様を任命しました。将来は、修道者や信徒にも委員になっていただきたいと思っています。そして、今後は、この教区典礼委員会が仲介となって、責任を担う信徒の皆さんと協力しながら、三地区における「司祭不在のときの集会祭儀の司会者」と「聖体授与の臨時の奉仕者」の養成（更新）講座や規約の統一・調整をおこないたいと思います。どうぞ、よろしく願います。

予備神学校と御聖体の恵み

六月十七、十八日と予備神学校が開かれました。十八日は『キリストの聖体』の祭日でもあり、予備神学校のテーマも主の晩餐の意味を深めるものでした。残念ながら今回は幾分少なく八名の参加者に留まりましたが、司教様、その他多くのリーダー達の献身的な手伝いもあって充実したものであったと思います。司教様を囲んで「主の晩餐」を

共に学び、味わい、分かち合う良い機会となりました。
 イエスが残された聖体の秘跡は、単なる奇跡ではありません。その恵みは神様であるキリストが私達のうちにおり、私達がキリストのうちにいること、つまり復活した主イエス・キリストと一つになるという事。こうして三位一体の神秘に私達も招かれています。

今回、私達は司教様、リーダー達、そして参加した子ども達は、まさにこの一つになるという事を体験しました。イエス様を通して与えられたこの恵みが教会共同体の中で息づいている瞬間を垣間見ることが出来たように思います。

願わくばもっと多く子どもが参加し、その恵みを共に分かち合いたいものです。その為にも皆さんのご理解と協力、何よりも祈りによって子どもたちの信仰養成を支えて欲しいと思います。（広島教区神学生 久保裕己）

教会スタンプラリー完了

第0025号
 小野 剛 (防府教会)
 小野祥子 (防府教会)
 小野愛乃 (防府教会)

第0026号
 藤本良子 (祇園教会)

第0027号
 上垣内智子 (幟町教会)

J-CaRM広島便り
 ベトナム共同体の現状
 幟町教会 山口トウイ



世界平和記念聖堂の地下聖堂でのミサの様子

まつて来ています。
 そして、ミサに来る信者の多くが積極的に教会の活動にも参加しています。
 また、ベトナム語のミサに参加するだけでなく、言葉の理解が不自由であるにもかかわらず、日本語のミサにも参加し、信仰を深め、幟町共同体にさらに深く関わろうとする人もいます。

毎月、第一と第四日曜日には、ミサ後に聖書の勉強と結婚生活の準備の勉強する時間を設けています。
 J-CaRMのメンバーや神父様方をはじめ教会の皆さんに色々協力していただき、ベトナム人の共同体もだんだん大きくなり、また、より強く幟町共同体に関わりあおうとしています。

幟町教会でベトナム語のミサが行われるようになってから九年が経ちました。現在は、月に一度、第三日曜日にベトナム語のミサが行われています。
 ミサのために、さまざまな場所から神父様に来ていただいています。最初の頃は、数名の共同体でミサを行っていましたが、現在、百五十名を超えているようになりました。参加している信者は、幟町教会所屬だけではなく、三次、江田島、呉、山口県内からも集

言葉の壁はありますが、信仰に何にも違いはありません。教会の活動など協力が必要であれば、遠慮なく声をかけてください。私たちベトナム人信徒は、さらに深く強くつながっていきたいと思っています。

地区便り

山口島根地区

＊聖イグナチオ的リーダーシップ (Ignatian Leadership) 研修会

六月十七日(土) 山口島根地区養成委員会では、「リーダーシップ研修会」をイエズス会の李聖一神父様を講師として迎え開催しました。

聖イグナチオの生涯から学びリーダーシップの特徴として七つの言葉①識別②分別ある愛③不偏心④反対のことをする⑤より大なる望みを引き出す⑥一人ひとりの世話をする⑦使徒職に対する世話・配慮について、李神父様の教職の体験を交えながらの講話でした(テキストは『神の指ここにあり』李聖一著)。

(研修内容一部分から) リーダーは世間的な指導力・力強く前に進むものではない。リーダーとは人格でなく、祈りの訓練であり、内省し自分自身を振り返ること、また上に立って命令を下すというものではなく、誰かがリーダーで誰かが従う者でという形のものでもありません。自らを従わせることができ、他者に任せ、他者とともに

に歩むことができるリーダーなのです。今の教会の状況を考えると新しい教会作りが進んでいる今、日本に司祭が誰一人もいなかったが二百六十年続いたことは忘れてはいけません。日本カトリック教会の誇りであり、同時に信徒の力でもあるキリシタン時代の組織を学びましょう。

研修会のDVDが必要な方は山口島根地区センター田中園子までに申し込んでください。電話 083-924-2931 FAX 083-923-6868 ※DVDと送料は無料です。

広島地区

＊三末司教一周命日祭

六月二十八日、世界平和記念聖堂で三末司教一周命日祭のミサ(司式は、白浜司教)と食事会が行われた。

＊広島カトリック聖歌隊発足式

日時：七月二十九日(土) 十四時～ 場所：幟町教会マリアホール 「広島カトリック聖歌隊」は、四月の地区司祭会議で承認され、設立されました。大規模なミサのための聖歌隊組織です。広島市内五教会、廿日市、呉の七教会で構成されています。地区の活動団体

として、典礼への奉仕に、より一層貢献できますことを願っております。この聖歌隊の所在地は、広島地区センターです。

＊「第二十二期『聖体授与の臨時の奉仕者』養成コース」

第二回「キリストの呼びかけにこたえるものとなるために」

日時：七月十六日(日) 十四時～十六時半 場所：広島カトリック会館多目的ホール

講師：柴田潔神父 第三回「キリストのお供をするもの」

日時：九月二十四日(日) 十四時～十六時半 場所：広島カトリック会館多目的ホール

講師：作道宗三神父 第四回「実践上の注意と実践指導」

日時：十月二十二日(日) 十四時～十六時半 場所：広島カトリック会館多目的ホール

講師：中村健三神父

＊「広島地区女性連合会キリシタン殉教地巡礼」

日時：十一月十三日(月) 十五日(水) ＊「信仰継承く神さまに愛さ

海峡からの風 45

下関労働教育センターだより

「広島から」

美しい世界を開く(SUNNY)

今年度より広島地区の平和使徒職推進本部副部長と正義と平和協議会の教区担当の任命を受けた中井淳(イエズス会司祭)です。四月七日、船で釜山から下関に入り、下関労働教育センターの所長としての仕事が始まりました。

一年間を韓国で過ごし、最後の一ヶ月は姉妹教区の釜山で過ごせたことはこれからの私の仕事の大きな糧になると思います。

韓国では、カトリック教会が民主化闘争の先頭に立ち、軍事政権時代には監獄に入れられる司教もいたぐらいですから、社会運動においてカトリック教会が大きな信頼を得ています。セウオル号の被害者・遺族のためのミサ、原発反対のためのミサ、労働者のためのミサなどが野外で開かれ、何人も

の司祭が共に司式している姿は圧巻です。私も足しげくそのようなキルコリミサ(通りでのミサ)に通い、韓国のカトリック教会の正義と平和を求める炎に触れることができました。

釜山教区でも、毎月最終月曜日の夕刻に「美しい世界を開くミサ」が開かれます。司祭の説教の

代わりに専門家の人の話を聞きます。私が参加した時は、ソガン大学の法学部の教授が「弾劾後の韓国の民主主義」について話をしてくれました。パク・クネの弾劾を求めるように集う集会は、異なる関心事を持った人々が集まりながら、隣りの者の痛みは家族兄弟の痛みであると共感し、連帯する集会であった。そして、これからの韓国社会は、あろうそく集いが開かれた光化門広場のように、他者の痛みに共感し、連帯していく民主主義となっていくかなければならないという話でした。そのメッセージはとても福音的で、十人ほどの若い司祭たちと一緒に共同司式をしながら、心の中に慰めと希望が溢れました。

さて、広島教区での仕事が始まり、さまざまな壁を感じながらも、希望を持っています。それは何よりも、広島が深い痛みを持つ場であり、その痛みから平和を作ろうとしている人たちがまわりにいるからです。広島教区で働けることの意義を私はそこに感じるのです。釜山教区を始めとした韓国の教会とつながりながら、広島だからこそそのメッセージを発信し、平和を祈り、活動へと向かっていく場とネットワークを作っていきたいと思えます。

れているから」地区教会
リーダー会

日時：十二月二日（土）十時
～十五時

場所：カトリック三篠教会
講師・ミサ司式：片柳弘史神
父

伯雲ブロック

*出雲教会でフィリピン独立記念日のお祝い

六月十一日、出雲、松江、米子、倉吉のフィリピン共同体は出雲教会の信者たちと一緒にフィリピン独立記念日を祝いました。まず三位一体を記念するミサで始まり、フィリピンについてのトリビア、最近の歌、伝統的な踊りと続き、最後に出雲の共同体が準備したフィリピン料理を味わいました。

一八九八年六月十二日、フィリピンは三百年間植民地支配をしたスペインからの独立を宣言しました。フィリピンは引き続きアメリカと日本に支配されましたが、国民はこの日を祖国統一の大切な一歩として記念します。

今日の第二朗読、コリント人への第二の手紙十三章十一節は「それでは、兄弟たちよ、喜べ、完全であれ、朗らかであれ、心を一つにせよ、平和



フィリピンの伝統的な舞踊

に生きよ。そうすれば、愛と平和の神は、あなたたちと共におられるであろう。」と教えています。本当に、私たちフィリピン人は日本人の兄弟姉妹と一緒に信仰を実践できることを感謝し、また、誰もがキリストに属しているという理解の中で、お互いの違いを祝うことさえできるので

す。
(境港教会 ルース・ガデア)

岡山鳥取地区

*第十回レクイエムコンサート・平和への祈り

六月二十四日（土）十四時から岡山空襲メモリアルコンサートとして岡山教会で開催しました。二〇〇八年から毎年



福田浩子（ソプラノ）と倉敷アカデミーアンサンブル

開催し、空襲関連映像や教会音楽、仏教の声明の演奏を通して、戦争の悲惨さを思い、犠牲者の鎮魂と平和の祈りを捧げてきました。今回は約百名がご来場下さいました。冒頭に岡山市制作の岡山空襲映像「炎の記憶」を上映。続いて倉敷アカデミーアンサンブルの弦楽と私の歌により教会音楽を中心に十曲あまりを演奏しました。後半は第一回目から出演の岡山天台声明研究会による声明、最後に次世代に繋げる意味で、桃太郎少年合唱団の透き通った天使のような声のコーラスで締めくくりました。これからもこの平和の祈りがより一層広がっていくことを願います。
福田浩子（岡山教会）

広島教区の施設 34
サビエル高等学校
校長 松原 秀樹

FOR OTHERS, WITH OTHERS
他者のために、他者と共に



小野田老人ホームで笑顔をもらいました！

を創りあげています。そして、今現在、私たちが夢みているものも、遠からず実現するはずですよ。

皆さんの夢はなんですか。皆さんは、将来、何をしたいのでしょうか？ 何になりたいと考えているのでしょうか？ 高校時代に、このことについて真剣に考えてほしいと思います。夢を夢で終わらせてはいけません。自分の可能性を信じて、前に進んでほしいと思います。そして、その夢を実現するためには、今、何をしなければならぬのか？ どう行動すべきなのか？ 具体的な手立てを真剣に考えてほしいと思います。先延ばしにせず、考えて、考えて、考え抜いてほしいと思います。ドイツの詩人ゲーテはこう言っています。「夢は逃げない。逃げるのはいつも自分だ。」まさにそうだと思います。面倒くさいと思わずに、しっかりと考え、行動に移してほしいと思います。サビエル高等学校は、教職員が丸となって、皆さんの皆さんの未来づくりの応援をします。

青少年の活動

中国ブロックカトリック高校生大会 三地区合同合宿



高校生たちの会議の様子

毎年三月末に行われている、中国ブロックカトリック高校生大会、通称「中プロ」。先日、三地区合同での会議が行われ、本格的に今年度の中プロ準備が開始しました。

中プロでは、広島教区の信者やミッションスクールに通う中学三年生、高校三年生までが集まり、講話を聞いて分かち合いをしたり、ミサやレクリエーションをしたりしています。



会議のあとは交流会

この大会の特徴は、「高校生が自分達で作り上げていく」

という事です。テーマやスケジュールを決め、核となる部分を担う「本部」、ミサやお祈りなどを考える「典礼」、毎朝の体操やレクリエーションなどでみんなを盛り上げる「レク」の三つの係を各地区で分担し、年に三回、三地区で集まって情報を共有しながら、一年をかけて準備をしていきます。

今年は広島地区が本部、岡山鳥取地区が典礼、山口島根地区



「ミサと感謝」

倉敷教会 助任

ヨナ金洪錫 神父

韓国で街を歩く時一番沢山目に入るものは面白いですが赤い十字架だったんです。夜中、山に登るとか高いビルで見たら夜空の星みたいにいっぱい有った赤い十字架。怖いくらい多かった赤い十字架はプロテスタント教会の象徴だったんです。

救いの十字架を建物の上に高く掛けている教会の十字架を数えてみましたけど多過ぎて結局諦めました。こんなに十字架が沢山あるのはイエス

イエス様を信じる皆さんが

全て自分が好きなように生活をしているからじゃないでしょうか。皆さんが学んだとおりに読んでお祈りするとお祈り人生を生きて進むなら必ずこの世は変わると思います。

正しい話だったんです。



(93)

今年の二月十四日広島教区に派遣されてから四ヶ月になりました。ここでは赤い十字架は全く見ませんでした。でも、市内を散歩していると、日本でコンビニの次に多いのが仏壇屋さんかと思っただけでした。

日本の宗教は神道と仏教が多いから家に仏壇を造って信仰生活をする人が多いと言われました。でもそんな店に行ったらなかったから好奇心で入ってみました。モダン仏壇、唐木仏壇、ミニ仏壇など色々なタイプの高品質なお仏壇が沢山ありました。そして仏事コーディネーターが相談をしていました。

こんな雰囲気ならばやっぱり宣教は難しいかなと思いつつながら仏壇屋さんから出る時小さい看板にこんなに書いてるのが見えました。

朝に礼拝、夕に感謝

仏壇屋さんの前で私は自分も知らずにこんなに囁いていました。

「朝にはミサ、夕には感謝」神様を信じる人は救われた人です。救われた人と赦された人は同じ意味だと私は信じています。許された人は神様に感謝する事が当たり前でしょう。だから神様を信じる人はいつも感謝しなければなりません。私たちが神様に感謝を捧げる一番良い方法はやっぱりミサではないでしょうか。

ならば朝にはミサ、夕には感謝。

学んだとおりに読んでお祈り信じてとおりに生きて進む事、これは感謝の内に神様の内で生きる事。正解はいつもミサと感謝。この二つでこの世は変わると思っています。私は信じます。

がレクを担当します。本部スタッフ会長の原世理奈さんは、「学年の差を感じないような中プロにしていきたい。」と話していました。

今年の高校生が作り上げる中プロはどんな大会になるのか、今からとても楽しみです。

(青少年情報センター 益田)

「広島教区練成会」のお知らせ

日時：8月9日(水)～11日(金)
場所：カトリック倉敷教会
対象：小学5年～中学3年
参加費：4,000円
担当神学生：久保



モンテッソーリ教育の第一人者相良敦子先生が六月二十六日に帰天された。つい先日でも大学を訪問され、元気な様子だった。お会いするといつも「大学と私のことを祈っているから」と。生涯を教会と共に生きた相良先生のご冥福をお祈りいたします。(YK)